



学校だより

平成26年9月1日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.433



「イランカラテ」でつながろう

校長 谷田 弘子

9月に入り、元気な子供の声が帰ってきました。大きな事故や怪我、病気などの報告がなく、みんな元気に過ごすことができたようです。日焼けした顔は、きりっとしていて、たくさんの経験を重ねて一回り大きくなって、戻ってきています。

今年の夏は、天候が不順で集中豪雨に見舞われた地域が多く、大きな事件も続き、ニュースから目が離せない毎日でした。8月末になって、猛暑から一気に秋になり、気温が急に下がってきています。運動会に向けて、体調管理が重要な9月になりそうです。

さて、「イランカラテ」は、アイヌの人々のあいさつで、「こんにちは」のことです。耳慣れないですが、どことなくやわらかい響きのある言葉です。

7月の終わりに、北海道で研究会が開かれたため、札幌に行って来ました。全国から集まった先生方と話をする機会もありましたし、多くの北海道で勤務されている校長先生方と情報交換をすることができました。

その際にいただいた資料の中に入っていた「イランカラテでつながろう」というパンフレットに興味をもちました。7月初旬に各校に「アイヌ民族 歴史と現代 ー未来を共に生きるためにー」という冊子が届いていたこともあり、アイヌ文化について少し調べてみました。冊子は小学生向きに作られているので、児童にも分かりやすいものでした。

まず、言葉ですが、アイヌ語はアイヌの人々の独自の言葉です。アイヌ語にふれる身近なものに地名があります。アイヌ語の地名は北海道をはじめ、サハリン（樺太）や千島列島、東北地方にも存在します。

例えば、札幌/さっぽろ は、サッ（乾く）・ポロ（大きい）・ベツ（川） 知床/しれとは、シリ（地面の）・エトク（出っ張った先端・岬）などアイヌ語由来の地名が多くあります。

次に衣服ですが、普段着と儀式用の晴れ着があります。樹木の内皮や植物繊維を織ったもの、動物や魚の皮を使ったもの、他民族との交流、交易で手に入れた木綿や絹の布で作られたものなど、さまざまな素材が使われていて、各地域の特徴をあらわす文様が施されたものが多く見られます。

最後に食文化です。自然の中に食糧を求めていたアイヌの人々は、多くの時間を食糧採集に費やしました。一度で取り尽くすことはせず、植物では必ず「根」を残し、次の年も採集できるようにしました。明治以降は、本州から移住者が増加したことによる環境の変化から、調味料を使用するようになるなど食文化は大きく変化したそうです。他に、住まい、信仰、歌や踊り、楽器などにも独特の文化が残っています。

自分達の知らない地域の文化や歴史を学ぶことにより新しい発見が生まれ、自分の地域の良さにも気付き、学んだ地域に親しみをもつことができます。これからの子供達の生きていく社会は、多種多様な文化をもった人々との共存によって成り立ちます。様々な文化に触れ、体験することがとても重要になっていきます。その第一歩として、あいさつをかわすことから始めることで、理解を進めていくことができます。そして、どの人も大切に思える、あらゆる人たちの人権を尊重できる大人に育ってほしいと願っています。